



ICT 活用で可能性を広げる

緑豊かな本校の子供たちにとって、本土の学校との交流学习は、社会性や多様な考え方を育むかけがえのない機会です。今年度、本校では小・中学校それぞれ年 20 回の交流を計画しています。長崎市からの多大なご支援をいただき、この貴重な学びの場が維持できていることに、改めて深く感謝申し上げます。

対面での交流で肌に触れる空気感や、直接言葉を交わす経験は何物にも代えがたい財産です。しかし、私はその可能性をさらに一步先へ進めたいと考えています。そこで鍵となるのが、オンライン会議システムを活用した「デジタルとリアル融合」です。

物理的な距離を飛び越えるオンラインの強みを活かせば、交流はもっと日常的で、もっと刺激的なものになります。例えば、本校の教員が画面越しに交流校の子供たちへ授業を行ったり、逆に交流校の先生に本校の教壇に（バーチャルに）立っていただいたり。そんな「教員の相互乗り入れ」が実現すれば、子供たちはより多様な専門性や感性に触れることができるでしょう。

この構想を、交流校である神浦小学校、外海黒崎小学校の校長先生にお話したところ、非常に前向きで心強いご賛同をいただきました。同じ長崎の教育を担う仲間として、島と本土の垣根を越えようとする先生方の熱意に、私自身も身の引き締まる思いです。

1 学期は「準備期間」。まずは土台をしっかりと固め、2 学期以降に、まずは 1 回でも具体的な実践へと繋げていきたいと考えています。

離島の小さな学校だからこそできる、最先端の学び。画面の向こうに広がる新しい仲間の笑顔と、そこで生まれる知的な刺激が、子供たちの世界をぐんと広げてくれるはずです。本校の新しい挑戦を、どうぞ温かく見守ってください。



交流日の朝は、職員と引率教員で、児童生徒が乗ったフェリーを見送ります。